

反戦・平和
人権 環境
脱原発の
火を消すな!

HP <http://i-peace-ishikawa.com/>



PEACE石川 N053 2016. 10. 17

発行 石川県平和運動センター
金沢市西念3-3-5 Tel 076-233-2170

アベ政権は危ない

福祉や医療を削って 捻出したミサイル 防衛システム

1兆7000億円

無力化?

自民党(小泉内閣)は2003年(平成15年)12月、安全保障会議で、BMD『日本版弾道ミサイル防衛』システム導入を決定した。そして、BMDが集団的自衛権に利用されるものではない旨の説明も発表した。

そして2004年(平成16年)度から毎年1,000億円から2,000億円の予算を計上し、ミサイル防衛体制の構築と研究開発を続けた。(2016年度で累計1兆6800億円となる)

しかし、アメリカの「武器在庫一掃セール」と揶揄されたPAC-3ミサイルによる防護範囲は、速度がマッハ6強(2km/秒)程度となる短距離弾道ミサイル(SRBM)に対しては、発射機より左右に各35度、前に40度、後に10度の扇状の範囲を迎撃できるが、ノドンなど、日本において直面する可能性の高い準中距離弾道ミサイル(MRB

M)攻撃(速度マッハ10以上3.7音速)では、半径20音速の扇状の範囲にまで縮小する。

撃ち落とせない ミサイル

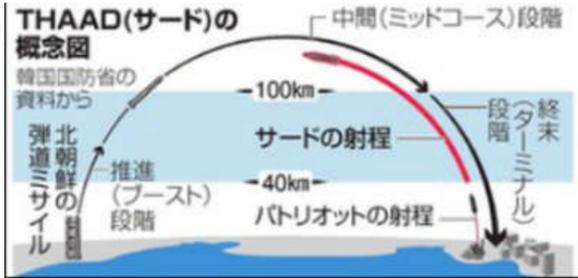
しかも、ノドンは地下サイロや移動式発射台のみならず、貨物船に偽装した朝鮮籍の工作船にも偽装船舶発射装置として配備可能とされており、2015年度には潜水艦SLBMの発射実験も成功させた。このため、弾道ミサイルを同時に多数発射された場合は、ミサイル防衛システムでの弾道ミサイル防衛は事実上対処不能であり、システムの有効性とその導入に対して、識者から疑問が投げかけられた。ただし「核弾頭搭載の弾道ミサイルが1発でも弾着すれば甚大な被害があるので、全弾迎撃が出来ないシステムを敢えて導入することは疑問」という意見に対しては、「核弾頭を1発でも迎撃できれば数十万人が助かるためシステムは有用」と負け惜しみを言う識者もいます。

防衛予算(概算)

5兆1690億円

因みに文科省概算要求は5兆8266億円

ところが安倍政権は、2017年度予算で5兆1690億円にもなる「防衛予算」を要求しており、その中には、新型PAC-3、イージス艦搭載「新」SM3など、無力となったミサイルを全て最新型に更新しようとしています。



THAAD(サード)は終末高度防衛ミサイルシステムが切り札のように言われていますが、それも移動式ミサイルには打つ手がありません。無駄なのです。

「安全保障の ジレンマ」

このように、「新型ミサイル」にはさらに「新型ミサイル」で、と際限ない軍拡競争が行なわれ、いつまでたっても安心・安全はやってきません。これを「安全保障のジレンマ」と言います。

9月9日朝には、弾頭の核実験を北朝鮮は強行し成功したといわれています。いかなる理由があるうとも、悪魔の炎II原水爆・核実験は認めることができません。

第17回定期総会 共同代表5人 のもと船出!

連合石川西田満明会長



来賓の方々

- ※敬称略
- 共同代表 山本 佳代子
- 石川県教職員組合(新)
- 共同代表 南 弘樹
- 北陸鉄道労働組合(新)
- 共同代表 本田 良成
- 全国一般労組(新)
- 共同代表 新明 宏
- 石川県高校教組(新)
- 共同代表 森 憲一
- 全港湾労組(新)



- 事務局長 中村 照夫
- 専従(自治労OB)(再)
- 運営委員 柳浦 光男
- 全農林労組(再)
- 運営委員 西田 寛
- 北観自動車労組(新)
- 運営委員 高木 正宏
- JR総連県協議会(再)
- 運営委員 近藤 伸恵
- 青年・女性部(再)
- 運営委員 谷 光哉
- 金沢地区平和セ(再)
- 運営委員 坂井 真吉
- 七鹿地区平和セ(新)
- 運営委員 吉田 幸裕
- 小松能美平和セ(再)
- 会計監査 森 暢一
- 石川県高校教組(再)
- 会計監査 町端 伸幸
- 北陸交通労組(新)

メインスローガン

核も基地も原発もない 平和な21世紀を つくりよう!

サブスローガン

- 戦争する国づくりを許さず、憲法改悪に反対しよう!
- 国防イデオロギーに抗し、反戦闘争を推進しよう!
- 現代の治安維持法、「テロ等組織犯罪準備罪」に反対しよう!
- 社会福祉切り捨て、軍備拡張予算に反対しよう!
- 小松基地の強化を許さず、静かな空を取り戻そう!
- 活断層上の志賀原発1,2号機を廃炉にしよう!
- 辺野古新基地、高江ヘリパッド建設を阻止しよう!
- 日本中を戦場に見立てるオ

スプレイ訓練に反対しよう!

政府によるマスコミ統制と人権侵害に反対しよう!
教育の国家統制と愛国心の強制に反対しよう!

憲法九条を破壊する安倍内閣を退陣に追い込もう!
日米安保のグローバルな強化に反対しよう!

すべての核開発に反対し、原発・核兵器を全廃しよう!

特別スローガン

子どもたちを再び、 戦争と放射能の 惨禍にあわせるな!

総会アピール

7月参院選で「改憲勢力」3分の2を制した安倍政権は、「戦力不保持・交戦権否認」を明記した現行憲法九条の破棄にむけて、ますます動きを活性化しています。沖縄では選挙で示された民意を完全に無視し、東村・高江地区においては米軍のヘリパッド建設に反対する地元住民・労働者の抗議行動を本土から動員した機動隊を使って暴力と弾圧の限りを尽くして仕事を強行しています。

ここ石川でも防衛省は、石川県沖に広がる「G空域」で新型ミサイル(SM3-2A)の実射訓練を発表し、米韓合同演習と連動して、朝鮮半島をにらんでの日米合同訓練が活発化しています。安倍政権が安保法制II戦争法を施行した直後には、宮崎県の新田原基地から小松基地へのアグレッサー(仮想敵機)部隊が配備されました。日本全土で、このようにいつでも先制攻撃ができる戦争の準備が着々と進められているのです。

福島第一原発事故から6年を迎え、いまだ終息せず故郷に帰れぬ人が数万を数えます。事故原因も究明されず誰も責任を取らないなか、昨年8月の川内原発、8月には伊方原発(SMR燃料を使ったプルサーマル発電)が再稼働を強行しました。

「もんじゅ」はついに「廃炉」が組上りのぼりましたが、それを隠れ蓑に新

型高速炉、核燃サイクルを再構築しようとしています。北陸電力は、原子炉直下の断層を「活断層ではない」として志賀原発の再稼働を目論んでいます。私たちは以上以上に脱原発に力を入れ、全ての原発の再稼働を止めなければなりません。



安倍政権の閣僚は、ほとんどが極右「日本会議」のメンバーで占められています。その影響は各地での教科書採択に現れています。侵略戦争を美化する国家観に基づく愛国心の強要は、子どもたちの未来に暗闇をかもたらしません。そして、自衛隊が白昼堂々と市内で武器を携えて行進することによって、生活の中に軍隊が入り込んでいます。

11月には南スーダンに「駆け付け警護」「宿営地防衛」を新たな任務とする部隊が青森から「出兵」を予定します。私たちは“いつか来た道”を絶対に許すわけにはいきません。さらに安倍政権は、9月26日から開催された臨時国会で憲法審査会を再開させ、「改憲」の国会発議に野党を巻き込むことを目論み、「戦争をする国」づくりの総仕上げを狙っています。社会全体が戦争に向けて、政治経済・教育が大きく変貌する中、私たちは危機感を持って、職場・地域から声をあげ、闘う戦線の拡大に全力をあげなければなりません。以上を決意して総会アピールとします。

2016年9月28日
第17回定期総会

♡♡♡♡♡

志賀原発を廃炉に！ 訴訟の勝利 いまこそ我が手に

堂下健一原告団

事務局長に聞く

大法廷を埋め尽くし、原発廃炉の意気込みを示そう

「志賀原発を廃炉に！訴訟は、2012年6月に第1次提訴、翌年に福島からの避難者5名で第2次提訴をし、現在125名の原告で裁判をしています。今では原発立地県のみならず、被害が及ぶ県でも多くの裁判が進められています。中でも関西の皆さんが原告となつて訴えた仮処分で勝訴し、稼働中の原発をとめた大津地裁判決は記憶に新しいと思います。また、この裁判の原告の弁護士は、金沢地裁でかつて志賀原発2号機訴訟の勝訴判決を書いた井戸謙一弁護士です。裁判官を退職した後は、彦根で弁護士事務所を開業し、今では8割がた原発関係の裁判に関わっているということです。事務員と彦根駅でチラシ配りもしているという話を聞いたこともあります。

裁判での原告の訴えは終りましたが、被告の反論に対して必要があれば反論していくという状況にあります。裁判の詳細な報告や準備書面等については、原告団のホームページにアップされていますので興味ある箇所で結構ですので、目をおしてもらえればと思います。今回の裁判で大きな争点の一つとなつていました志賀原発の敷地内断層については、4月27日に規制委員会と有識者会合の評価書が規制委員会受受理されたことで、原告としては活断層問題については決着したと思つています。だが、北陸電力はあくまでも志賀原発の再稼働を目指しており、活断層論議の舞台は適合性審査の場として、裁判については引き延ばし戦術で法廷に臨んでいることは見え見えます。原告の準備書面に対するまともな反論もこれまで出してきていません。裁判闘争勝利にはいくつかの課題がありますがやはり何と言つても大きいのは原告・サポーターをはじめとする再稼働阻止・原発廃炉の意気込みと県民世論です。よく言われますように、法廷内外の活動が大きな勝訴の要素です。



さて、「志賀原発を廃炉に」訴訟の進行状況ですが、既に19回の口頭弁論を終えています。ほぼ毎回原告より意見陳述をしてきており、廃炉への思いを裁判官に訴えています。口頭弁論は最も広い法廷で開催されていますが、残念ながら空席が目立つ状況です。結審、判決までの回数は限られてきていますので、残りの裁判日程に特に原告・サポーターに名を連ねている人は、1回は傍聴参加をすることを訴えます。

裁判での原告の訴えは終りましたが、被告の反論に対して必要があれば反論していくという状況にあります。裁判の詳細な報告や準備書面等については、原告団のホームページにアップされていますので興味ある箇所で結構ですので、目をおしてもらえればと思います。今回の裁判で大きな争点の一つとなつていました志賀原発の敷地内断層については、4月27日に規制委員会と有識者会合の評価書が規制委員会受受理されたことで、原告としては活断層問題については決着したと思つています。だが、北陸電力はあくまでも志賀原発の再稼働を目指しており、活断層論議の舞台は適合性審査の場として、裁判については引き延ばし戦術で法廷に臨んでいることは見え見えます。原告の準備書面に対するまともな反論もこれまで出してきていません。裁判闘争勝利にはいくつかの課題がありますがやはり何と言つても大きいのは原告・サポーターをはじめとする再稼働阻止・原発廃炉の意気込みと県民世論です。よく言われますように、法廷内外の活動が大きな勝訴の要素です。

3. 11福島原発事故以降の国民世論は脱原発です。しかも、当初より言われてきたトイレなきマンションの問題が改めて浮き彫りにされたこと。原発がなくても国民生活に何ら逼迫した状況にはならないことがこの5年間で証明されたのではないのでしょうか。電力会社の言い分も、安定した電力供給よりも、会社の経営安定と利益のために再稼働を進めて来ていることが歴然として来ています。電力会社の利益のために未来を失うことなどあってはなりません。

もうひと踏ん張りしましょう。原発の息の根を止めることには大義があります。

△闘いの軌跡



6. 19 戦争法廃止！憲法壊すな！県民集会



6. 23 沖縄慰霊の日報告会



7. 25 日米合同演習反対集会 小松基地正面ゲート前集会



9. 22 「さようなら原発さようなら戦争」代々木公園バス参加

△当面の日程

- ◆10月19日16:00ピーステント(四高記念公園) 八団体
- ◆10月24日18:15 「10.21国際反戦デー」集会 青年女性部 地場産本館

◆10月23日と29日志賀町全戸活断層チラシ入れ いずれも文化ホールへ9:30集合
◆10月25日17:30 「戦争を許さない！」街宣 きらら戦争をさせない1000人委・石川

出前講座
組合員・PEACE ネットの皆さまへ
5人揃えば無料で講師を派遣します。大学教授、弁護士など著名人。

一緒に、反戦・平和、憲法、脱原発、環境、人権を守る運動に参加しませんか。賛助会員制度
PEACE ネット
会員募集中
年会費3000円

◆11月3日13:00南スーダン派兵反対！憲法改悪阻止！集会 県憲法を守る会

14:00 「9条を守り、戦争する国づくりをやめさせよう！」集会 歌劇座(大集会室) 講師北村肇さん(週刊金曜日発行人) 八団体

◆11月8日17:30 「戦争を許さない！」街宣 エムザ前
◆11月12日14日憲法理念の実現をめざす第53回護憲大会(富山市)
◆11月19日14:00ピーステント(四高記念公園) 八団体

◆11月22日17:30 「戦争を許さない！」街頭宣伝 金沢駅東口
□最新情報はHPにて

△編集後記

○沖縄では米軍基地はいらないと、全基地撤去を闘っています。この闘いは沖縄の闘いではない、まさに私たちの闘いです。

○安倍政権は沖縄で異常な弾圧を繰り返している。私たちは弾圧に負けないぞ！辺野古、高江に基地は造らせないぞ！

○「防衛費」を人殺し予算と称し役職を解任された国會議員がいる。「キル！キル！キル！」と叫びながら訓練する自衛隊は、殺人部隊ではなく何なの？

○「自衛隊」を11月にも青森から「出兵」させようとしている。戦争法の発動やめろ！ 戦争する国への「突破口」を許さないぞ！

